

第6回 「川崎市学校評価事業運営委員会」 会議録

- 開催日時 平成19年11月21日(水) 9時30分～11時30分
- 開催場所 川崎市教育会館 第3会議室
- 出席者
 - ・委員 村井委員、松下委員、千々布委員、高木委員、中村(亮子)委員、白井委員、藤田委員、杉田委員、中村(秀雄)委員、前島委員、垣東委員、渡邊委員
 - ・事務局 中島、江尻、小松、佐藤(利)、佐藤(栄)

- 欠席委員 宮嶋委員、横山委員、鈴木委員、隅田委員、加藤委員、

■次第

- 1 開会のことば
- 2 委員長挨拶
- 3 議案
 - (1) 第5回川崎市学校評価事業運営委員会会議録の確認(資料1)
 - (2) 検討事項
 - 川崎市版学校評価システムモデルの作成等について(最終報告書[案])
 - ① 学校評価事業運営委員会等の研究概要について(資料2)
 - ② PDCAサイクルに基づいた学校評価システムの作成について
～研究協力校の資料に基づいて～ (資料3)
- 別紙資料:「学校評価に係る学校教育法施行規則等の一部を改正する省令について(通知)」
- 4 その他(次回の日程等)

- 傍聴者 0名

■協議内容

- 1 委員長の挨拶
 - 2 議案
 - (1) 第5回委員会会議録(資料1)について確認を行い、承認された。
 - (2) 検討事項
 - ① 「川崎市版学校評価システムモデル」の作成について
- 事務局 「学校評価に係る学校教育法施行規則等の一部を改正する省令について(通知)」(別紙資料:当日配付)について「規定の概要」「留意事項」の内容を説明。
次に、「川崎市版学校評価システムモデル」の作成について、資料2、資料3をもとに補足説明。訂正箇所として、「川崎らしい学校評価」から「川崎市が考える学校評価」という表現に、「外部評価」から「学校関係者評価」に変更の旨を説明。
 - 委員長 資料をもとに、具体的な意見をいただきたい。
 - 委員 資料2の表紙の表題について、「信頼される開かれた学校」と「学校評価で信頼される学校づくり」とが重複している表現となっているが、これについてはどうか。
 - 委員長 この重複した表現については、事務局の考えはどうか。

- 事務局 副題の「学校評価で信頼される学校づくりを」については削除する。
- 委員 表紙の「川崎市義務教育の質の保証に資する」という表現において「質の保証」をどのように捉えているのか。「質」と「内容」「中身」について説明をいただきたい。
- 事務局 次回までに、具体的に説明できるようにしておく。
- 委員 「教育の質の保証」については、平成17年の中教審の答申の中に、これからは結果としての質を保証するという方向であり、その方向によって義務教育の質を保証していくということが記述されている。学校評価をすれば質が保証されるというわけではないが、教育の質の保証をどのようにしていくか、その一つとして学校評価はある。学校教育法に規定されている教育の目標等の達成に向けてなすべきことをしていくという方向で質の保証をとらえてもらえばよい。
- 委員 2ページの「報告書の策定にあたって」という表現については、「策定」より「作成」という表現が適切ではないか。
- 事務局 「作成にあたって」という表現に訂正をする。
- 委員 2ページの「報告書の策定にあたって」の4行目の「質の高い教師」という表現について教師のイメージとして抵抗のあるものとならないか。教師を規定する表現とならないか。
- 事務局 中教審の答申より引用したものである。
- 委員長 このことについて、ご意見をいただきたい。
- 委員 現場の教師から反発を受けるという意見もあるが、教師の質を保障すべきという意見もあり、中教審の文言ができたと認識している。抜粋している部分なので、引用しないことも可能であり、あえて引用して明確にするという考え方もある。
- 委員 質の高いという場合、何を求めて質が高いというのか不明であり、わかりにくい表現である。どのような教師のことを言うのか。質も大切だが、心の面も必要であると考えます。
- 委員 学校評価システムの前文としてこの答申内容を引用することについてどうなのか。
- 委員 この答申内容については、平成17年のものであり、現在の時点では捉え方が違ってきている。教員の質についての課題についても変わってきている。再度検討をしてみてはどうか。
- 委員長 このことについては、再度検討をしていただきたい。その他の点についての意見をお願いしたい。
- 委員 「学校評価の目的、流れ」のページについて、「教育委員会へ評価書の作成」となっているが、「報告」という表現も追加されるのではないか。
- 事務局 追加する。
- 委員 「外部評価」という表記が何箇所か出てきているが、この扱いについてはどうか。
- 事務局 すべて「学校関係者評価」という表現に統一する。
- 委員 Action から Plan にむけて矢印を追加したほうがよい。また、自己評価の枠での Do の部分で、授業参観というのは「学校関係者評価」に含まれるのではないか。Check の部分も含めて、自己評価、外部評価の枠内の記述項目について検討したほうがよい。学校評価自体がカリキュラムマネジメントとなっていることから、このことについても学校評価の流れと自己評価の枠内と関連づけて検討してみたい。
- 事務局 ご指摘いただいた枠内の内容については具体的には検討をする。
- 委員 Plan の部分について、学校経営計画については中期目標だけでよいのか。

- 事務局 中期目標とあわせて長期目標と短期目標などについてもご意見をいただきながら検討していきたいと考えている。
- 委員 「学校の目的」について、情報の公開の部分も必要ではないか。なお、学校評価の目的については、学校現場に浸透していくためにも見やすいものとしていく必要がある。研究実践校にかぎらず、どの学校についても取り組みやすい、目的が明確となっている学校評価を進めてもらいたいと考えている。
- 委員長 その他、このページの内容についてご意見があればいただきたい。
- 委員 Do の自己評価の「アンケート」は学校関係者評価の枠にも入るのではないか。保護者等を対象としているアンケートは学校関係者評価の一部として位置づけているものではないかと考える。
- 委員 「ガイドライン」では、「アンケートは自己評価である」としているが、協力者会議での報告では、アンケートはすべて自己評価ではなく、学校関係者評価に関するアンケートもあるとしている。現在の保護者に対するアンケートは、ほとんど自己評価に関する資料の一部として受け止めてよい。
- 委員長 多くの学校がアンケートの結果のみで学校関係者評価としている状況もある。アンケートは目的をもって実施することが大切だが、自己評価を行なうための資料の一部と考える方がよい。
- 委員 アンケートは、学校の実情により実施してよいものである。アンケートという表記は削除し、「情報・資料の収集と整理」のみにしてはどうか。学校関係者評価の枠についても「情報・資料の収集と整理」でよいと思われる。
- 委員長 この部分についても、事務局で検討をしていただきたい。
次のページの「川崎市が考える学校評価」についての項目立て、内容についてのご意見をいただきたい。
- 委員 吹き出しについての見方についてご説明を願いたい。
- 事務局 吹き出しについては、「川崎市らしさ」について委員の皆さんのご意見をまとめたものを記載した。雲型の吹き出しについては、次のページの項目立てと関連づけて記載している。
- 委員 「川崎市が考える学校評価」というタイトルで考えると、説明の部分と川崎市としての学校評価について述べる部分とに分けて記述したほうがよいのではと考える。6つの項目立てについて整理をしたほうがよいのではないか。
- 委員長 川崎市として学校評価について何を重要として考えているのかについて説明し、その後に項目立てを検討していくということである。川崎市らしさをもっと前面に出していくことも必要である。川崎市らしさについて更にご意見をいただきたい。
- 委員 川崎市らしさを考えたときに、「人権尊重教育」が挙げられる。「子どもの権利に関する条例」を作成したときに、「子どもが幸せになるためには、大人が幸せにいてください」というメッセージが印象に残っている。学校で子どもたちが生き生きと過ごすためには、教員も生き生きと教えていくことも必要である。このことも踏まえて考えてほしい。
- 委員 学校が元気になるという学校評価を進めていくことが大切であるというような内容もほしい。
- 委員 「学校教育推進会議と地域教育会議等の既存の組織を生かした」という表現について、学校関係者評価委員会として連携して扱うことについてはどうか。それぞれの会議の在り

方にもよるが、会議の目的が違うのではないか。

- 委員 学校教育推進会議とは別に学校関係者評価委員会を設置したほうがよいという意見ととらえてよいか。
- 委員 学校教育推進会議には、児童・生徒が加わって実施しているが、学校関係者評価委員会では児童・生徒を入れて実施していないので、必ずしも学校教育推進会議イコール学校関係者評価委員会という考え方ではないし、別の組織として考えたほうがよいのでは。
- 事務局 学校関係者評価委員会では児童・生徒の参加について各学校ではどのようになっているのかお聞きしたい。
- 委員 学校関係者評価委員会に児童・生徒が参加することについては、文部科学省に照会をしたが特に異論はないとのことである。
- 委員長 「川崎市らしさ」を出すうえで児童・生徒が参加をしていくことがよいのではというご意見に対して、どうか。
- 委員 学校評価に関する意見表明において児童・生徒の声を反映していくことと、会議において学校をどう構築していくかという上で児童・生徒が同席していくこととは、別のことであるとする。評価委員会の委員として児童・生徒が加わることは難しいと考える。
- 委員 各会議において目的は違うが、多忙な学校現場において、新たに委員会を設置することも大変な所もある。柔軟な考え方もあるのではないか。
- 委員 地域教育会議と学校教育推進会議とを分けたほうがよい。学校教育推進会議と学校関係者評価委員会については、学校の実情によるが、すべてに児童・生徒が参加をしていくことについてはどうかと考える。
- 委員 学校では会議が多いので、PTAとしてはできれば一本化をしてもらいたい。しかし、会議の内容によっては、児童・生徒がいる場合といない場合があってもよいと考える。地域教育会議でも児童・生徒の意見を聞くときもある。柔軟に考えたらよい。
- 委員 地域教育会議は学校をどうしていくかという場ではなく、地域をどうしていくかを話し合う場である。どのように位置づけていくかが必要である。
- 委員 学校関係者評価委員会の設置にあたっては学校教育推進会議や地域教育会議などの委員を活用していくというような考え方ではどうか。児童・生徒が参加については柔軟に扱っていくことでよいと考える。
- 委員長 組織をどう生かしていくかが大切である。学校において学校教育推進会議や地域教育会議を活用する場合もある。学校評価の目的を達成することができれば、各校の事情に基づいて運用してもらえればよいと考える。その他に検討を要する表現について意見をいただきたい。
- 委員 地区担当指導主事・主幹制度による教育委員会の支援については、学校評価としてどのようにかかわっていくのか、子ども支援担当も含めて総合的に係わっていくということについても、検討していく必要はないか。
- 委員 川崎市としての地区担当指導主事の規定の仕方によると思うが、教育委員会として地区担当指導主事が学校評価に対しての役割も期待されているのではないか。自己評価・学校関係者評価の結果に対して、地区担当指導主事が指導していくという形になると思われる。教科の指導主事も各学校に派遣するという事も考えられる。地区担当主事も学校評価に対して支援していくような方向となる。

- 委員長 ③については、教育委員会が学校の評価結果を踏まえてどのように学校を支援していくのかについても検討をしてもらいたい。
- 事務局 以上の意見をいただいたことで、①から③の項目の検討と6項目の配置についても整理・検討をしていきたいと考える。
- 委員 指導課の地区担当について、現在は7地区で学校支援を行なっている。扱っている事例については、1年目は3000件だったが、2年目は7000件と増加してきている。3年目を迎えて、学校に対しての支援の仕方や学校評価も含めて学校経営についての係わり方を現在検討しているところである。
- 委員長 次に、資料3のPDCAについて説明をしていただきたい。
- 事務局 資料3について説明。
- 委員長 各ページについてのご意見をいただきたい。
- 委員 評価の結果をまとめるためのプロセスみたいなもの、例えばKJ法でまとめられている学校の実例が載っているが、このようなわかりやすい内容があるととてもよい。全体としてこの資料はよくまとめられている。
- 委員 評価項目をつくるために校内で研修を行なった学校の事例によると、その結果、学校の現状がよくわかってきたということがあった。アンケートの項目は、学校でやっていることを学校関係者に評価してもらいたいという理由で、項目立てをしているケースもある。評価項目については、最後のページの評価シートを参考として載せることも必要だが、学校独自で作成をしてもよいと考える。
- 委員長 この自己評価シートは一つの例として扱ってもらうものなので活用方法について説明したほうがよいと思われる。
その他、何かご意見は。
- 委員 アンケートの選択肢は4つの場合が多い。「どちらでもない」という選択肢も必要と考える。保護者の学校に対する考え方の実情がよくわかる。
- 委員 4つの選択肢でアンケートを実施すると肯定的な結果となりやすい。5つの選択肢にすると「どちらでもない」という回答が多くなる。
- 委員 子どもと先生と保護者とが同じ評価項目で実施している学校が資料の中にあるが、保護者が授業を見ないで評価できるとは思えない。学校評価とは言えないのではないか。学校を本当に改善していくならば、「どちらでもない」と回答した人には「どちらでもないとするならば、改善するためにあなたはどのような協力をしていきますか」という項目があってもよいと思われる。保護者の意識を高めていく必要がある。
- 委員長 保護者に対しても評価項目について検討をしていく必要があろう。
- 委員 このPDCAサイクルの資料の提案だと、学校ではこのように実施して公表・報告だけとなり、外部評価にかけて終わりとするということにならないかと思われる。学校評価が改善につながらないことも考えられる。形式だけの学校評価とならないためにも、改善につながるようなプロセスがわかるようなモデルとして提示することも大切である。
学校教育推進会議の在り方についての説明を提示したり、アンケートの実施の回数や分析を自由記述でまとめていくという方法など、多様なものを載せておくことも必要である。
- 委員長 このプロット案は一つの参考例として見てもらえるようなものになることが大切である。
- 委員 自己評価・外部評価シートについて、外部評価委員会からの施設・設備についての項目で

は、教育委員会に要望する内容を記述するというのではなく、自助努力をしていく内容についても記述していくことが改善につながるものとする。この項目の在り方について、示唆していただけるものがあればお願いしたい。

- 委員 2つの考え方がある。ひとつは、自助努力だけではできないので要望することにより教育委員会に予算化をお願いするということである。同時に、教育委員会でも予算化がむずかしいので、議会へ学校からの要望を集約したものを資料として出していくという場合。もうひとつは、学校において自助努力をしていく方法を見つけていくという考え方である。保護者や地域の方からの協力を仰ぎながら、予算がないならどのようにしていくのかを考えていくこともある。
- 委員 学校評価は何のためにやるのかということである。自己評価や学校関係者評価をもとに自助努力して改善できることが評価項目だと考えている。それ以外については、管理者としての校長が委員会に意見を出して設備・施設について改善を図っていくことである。
- 委員長 学校評価の意図について再度確認していくということで、この資料についてはまとめてもらうことになる。その他の点で何かご意見があればいただきたい。
- 委員 13ページの自己評価・外部評価シートについて、実際に重点項目と10の評価項目について記述してみたが、学校の重点目標を全体の項目に当てはめて記述することがむずかしかった。重点目標は、前年度の反省をもとに設定していくものである。この様式が学校の重点目標を規定してはいけないと考える。
- 委員 品川区の評価項目についての取り組みが参考となる。あとで見てもらえればよい。
- 事務局 評価項目についての設定は、学校の実情について取捨選択をすることもできるとしている。
- 委員 重点目標を項目として評価シートに記入していくことは可能である。10項目を意識してシートを作成すると重点項目が作成しづらく影響されやすい。自由に項目を立ててよいということがあってもよいのでは。教育委員会としてこの様式の項目を使ってほしいというのなら、学校でそれに合わせて目標を設定していくことになる。
- 事務局 シートの形式は生かして、項目すべてにあてはまる必要はないと考えている。
10項目が基本であり、追加する項目があってもよい、空欄があってもよいが、このシートを使用してもらいたいという条件で提案したい。なお、川崎らしさという点で、児童生徒指導の人権尊重教育の項目については、ぜひ設定してほしい。
- 委員長 以上の協議の内容を踏まえて事務局で検討事項をまとめ、再度提案していただきたい。

(3) その他（次回日程等）

次回の日程：平成20年1月28日（月）9時00分～11時30分

場所：川崎市総合教育センター 第2会議（予定）